

脳ドックの検診開始

製鉄記念
室蘭病院 タブレット端末活用

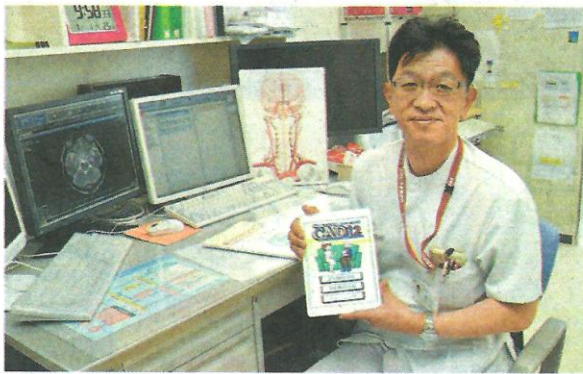
製鉄記念室蘭病院（室蘭市知利別町）は7月から脳ドックを始めた。認知症の診断をよりの確に行うため、画像診断のほかタブレット型端末を使い、受診者の記憶力などを検査するのが特徴だ。

同病院は今春、最新鋭の

磁気共鳴画像装置（MRI）を導入。小さな脳梗塞、微細な血管の異常などを鮮明に撮影できる。

MRIで脳腫瘍や、脳の

タブレット端末を手に脳ドック受診を呼び掛ける林脳神経外科長



萎縮、動脈瘤の有無などを診断する。また希望者に

はタブレット型端末を渡し、表示された数字をいったん記憶し、画面で指示された通りに入力し直すなどの検査も行う。使用するソフトは島根大が開発したもので、林征志脳神経外科長は「画像診断との併用で、認知症診断に役立つ」としている。

脳ドックは毎週火曜、金曜の午後3時以降に行い、予約制。健康保険の適用外で、画像診断のみの「基本検診」は2万7千円。タブレット端末も使う「物忘れ検診」は2万8080円、血液・尿検査も含む「総合検診」は3万7800円。

林医師は「脳の病気は重い後遺症につながる可能性も高い。働き盛りの人も受診してもらいたい」と話している。問い合わせは製鉄記念病院 ☎0143・44・4650へ。（相沢宏）